

機関番号：25502

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20510251

研究課題名 (和文) 基地と岩国市民

研究課題名 (英文) US Bases and Iwakuni Citizen

研究代表者

吉本 秀子 (YOSHIMOTO HIDEKO)

山口県立大学・国際文化学部・准教授

研究者番号：00316142

研究成果の概要 (和文)：

これまで在日米軍基地問題は、主として政治領域の問題として扱われてきたが、本研究は、これにジェンダーの視点を持ち込み、女性を中心とした岩国市民のオーラル・ヒストリーを記録することで、基地問題を公的領域としてだけでなく、公的領域と私的領域を橋渡しする問題として捉え直している。三宅は、岩国市民のキーパーソンに聞き取り調査を実施、オーラル・ヒストリーを記録した。藤目は、占領期における基地被害を女性史の視点から描き出し、著書『女性史からみた岩国米軍基地』を出版した。瀬瀬は、日米安保条約の枠組みから見た岩国基地の位置を考察した。吉本は、在日米軍基地が米国でどう報道されてきたかについて、ニューヨークタイムズ紙を例に分析した。基地問題で私的領域は顕在化しにくい。本研究は、顕在化しにくい部分を聞き取り調査と一次史料調査で顕在化させることを試みた。また、メディア分析で私的領域が公的領域として顕在化する事例を探った。

研究成果の概要 (英文)：

This study addressed the US military base issues in Japan from a gender perspective. The issues have been seen as “political” or at the “public” sphere but it focused on its “private” sphere and family history not been discussed enough before, bridging the gap between the two spheres and looking into women’s life histories. Miyake interviewed key persons in Iwakuni and recorded their oral life histories. Fujime conducted a historical research of female victims during the occupation period and wrote a book titled “US Military Base in Iwakuni and Women History.” Koketsu overviewed the role of the Iwakuni base within a framework of US-Japan Mutual Cooperation Treaty. Yoshimoto examined the US media coverage of the US bases in Japan and clarified how Iwakuni and Okinawa had been reported in the New York Times. The private sphere of military base issues has been latent. The series of interviews and primary source research attempted to articulate it and the media analysis explored a case that the private sphere turns into the public sphere.

交付決定額

(単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,900	570	2,470
2009年度	1,400	420	1,820
2010年度	300	90	390
年度			
年度			
総計	3,600	1,080	4,680

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：ジェンダー

キーワード：ジェンダー、女性史、米軍基地、安全保障、地域再生、市民運動、メディア

1. 研究開始当初の背景

米軍再編計画による艦載機の厚木基地から岩国基地への移駐をめぐって2003年に行われた住民投票において岩国市民は、基地機能拡大に対して初めての反対の意思表示をした。女性たちの活動が顕在化してくるのはその前後である。以後、岩国市では基地推進と反対の攻防が続くなかで、女性たちは今や基地反対の市民運動の担い手として一大勢力を構成している。男性とは異なった生活史を生きてきた女性たちはどのような意識の回路を経て、反基地意識をはぐくんできたのか。これについて理解を深めたいと思ったのが、「基地と岩国市民」研究プロジェクトをはじめた動機である。

2. 研究の目的

「米軍基地」「安全保障」「米軍再編」——これらは社会科学の公私二分法の伝統的な見方からすると公的政治領域に属する問題群であるが、このような二分法に依拠するかぎり女性たちの意識形成の根幹に関わる私的家族領域は分析の対象にはならない。これでは基地問題、とりわけ、数十年間の基地との共存の果てに反基地意識を培ってきた岩国市民の現在を理解することはできないし、基地依存体質から脱却した地域再生の展望を語ることもできないだろう。

以上の点を念頭に置いて、基地問題の分析にジェンダー視点を導入することを本研究の目的とした。なお、ここで断っておきたいのは、「性差に焦点を合わせ

る」と言ったからといって、それを本質主義的にとらえているわけではない。近年のイラク戦争や憲法9条改変問題など戦争と平和の問題に関わる世論調査をみるかぎり、女性の方が男性に比して反戦・非戦、平和志向が強いという傾向を表していることは事実である。本研究ではこのような男女の差異をそれぞれがたどる生活史の違いととらえているために、女性たちの主たる生活現場である家族領域の問題を分析の対象にしている。

「基地と岩国市民」というタイトルの市民のなかでとくに女性市民に焦点を合わせて基地の町岩国の戦後史を描くこと、そうすることで地域再生の道を考えること、これが本研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究では、性別、階層、職業、宗教、基地をめぐる政治的立場の違い等に注意を払いながら選んだインフォーマントの聞き取り調査と研究会活動を二本柱として進めてきた。

聞き取り調査は3年間で男女を問わず60名近い人数の人々に対して試み、そのなかから記録に値すると思われるインフォーマントには複数回の聞き取りを行いながら、個々のライフヒストリーのなかで反基地意識がどのようにはぐくまれたかについて数名分の貴重な記録を作成することができた。聞き取り調査の初期の段階では基地推進派の女性たちにもインタビューを試み、そこで得た調査成果は岩国の戦後史の全体像を

とらえる際に役立った。しかし、調査の進展のなかでインフォーマントは住民投票後生まれたさまざまな団体（「住民投票の成果を活かす会」や「岩国を守る会」など）やさまざまな活動（「岩国爆音訴訟」「愛宕山開発事業認可取消処分」の取消訴訟）など四つの裁判、そして折々に催される大規模な反基地市民集会)のなかから選ばれるようになり、「爆音訴訟」の原告団を構成する女性たちの語りにはまさに男性とは異なる女性の生活史が色濃く映し出されており、今後の聞き取り調査の可能性を実感させるものがある。

研究会活動は研究分担者の個々のテーマの研究成果を共有するために行われた（時に外部の基地問題の研究者を招いたこともある）のだが、これは個別研究の進展のみならず、聞き取り調査の方法論を鍛えるうえでも有益であったことは言うまでもない。

4. 研究成果

本研究の目的を一言でいうなら基地問題をジェンダー視点でとらえることである。その目的に沿って単行本として刊行されたのが藤目ゆき著『女性史からみた米軍岩国基地——広島湾の軍事化と性暴力』（ひろしま女性学研究所 2010年）である。これを本研究の誇るべき成果とするなら、聞き取り調査は現在も進行中であり、未だ道半ばの感がある。とはいえ、調査を継続することで従来の「基地問題」の研究では俎上に上らなかった女性の意識、家族領域の問題が基地問題との関連性において把握できるのではないかという見通しは確実にもてる。そうであるなら、本研究は基地問題の政治学的研究、あるいは社会学的

研究にとって新領域を切り開いたことになるだろう。

本研究期間の終了にあたり、研究成果として『基地と岩国市民』（A4判冊子 2924字詰め 76ページ 2011年3月末）を刊行した。目次は次の通り。

はじめに p. 1

パート I 基地と岩国市民:聞き取り調査 (実施者 三宅義子) p. 2~38

1 ベトナム戦争と岩国市民

1) ベトナム戦争と岩国市民 岩井健作さん講演

2) ベトナム戦争期の岩国における婦人矯風会の活動 渡辺道子さんの記録

2. 岡田久男さんに聞く

3. 末岡静枝さんに聞く

4. 西村真弓さんに聞く

5. 山本菊子さんに聞く

パート II 論文

1. 広島県・山口県における占領軍被害 藤目ゆき p. 39~56

2. 日米安保の展開と岩国基地の位置～拡大する基地機能の背景～ 纏 纏厚 p. 57~67

3. アメリカは在日米軍基地をどう報じてきたか: NYTにみる沖縄と岩国 1980-2010 吉本秀子 p. 68~72

4. 岩国基地問題へのアプローチ——軍事主義とジェンダーについての覚え書き 三宅義子 p. 73~76

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計3件)

2008年

・藤目ゆき「基地の街岩国の女性史」
『アジア現代女性史』第4号 p. 42～56

2009年

・瀬瀬厚 「民主党の危険な安全保障」
『現代思想』第137巻第13号 p. 206～
215

・三宅義子「岩国基地問題へのアプロ
ーチ——軍事主義とジェンダーにつ
いての覚え書き」『平和市民』第5号
p. 18～20

[図書] (計2件)

2008年

・共著・瀬瀬厚『基地を持つ自治体の闘
い——それでも岩国は負けない』(金曜
日刊) (「自由と自立のために重要な岩国
の闘い」分担執筆) p. 50～58

2010年

・単著・藤目ゆき『女性史からみた米軍
岩国基地——広島湾の軍事化と性暴力』
(ひろしま女性学研究所刊)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

2008-2009年度
三宅義子 (MIYAKE YOSHIKO)
研究者番号: 60264975

2010年度
吉本秀子 (YOSHIMOTO HIDEKO)
山口県立大学・国際文化学部・准教授
研究者番号: 00316142

(2) 研究分担者

藤目ゆき (FUJIME YUKI)
大阪大学・人間科学部・准教授
研究者番号: 60222410

研究分担者
瀬瀬厚 (KOKETSU ATSUSHI)
山口大学・人文学部・教授
研究者番号: 00234691

2008-2009年度
吉本秀子 (YOSHIMOTO HIDEKO)
山口県立大学・国際文化学部・准教授
研究者番号: 00316142

(3) 連携研究者

2010年度
三宅義子 (MIYAKE YOSHIKO)
研究者番号: 60264975